

単元づくりの4つのステップ

に基づく

『言語活動パーフェクトガイド』（水戸部 修治調査官 編著） 参考

単元構想シート

	単元名：世界の物語を紹介しよう！ 「はりねずみと金貨」			
＜ステップ1＞単元として付けたい力を確定する ○年間指導計画（マトリックス表 年間単元重点一覧表）を活用して年間を見通した上で、この単元でどのような力を付けたいのか、学習指導要領の指導事項の中から確定する。	指導事項 ↓ C（1）エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。 カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。			
＜ステップ2＞言語活動を確定する ○ステップ1で確定した付けたい力を育成するのにふさわしい言語活動を適切に選定する。 指導事項と言語活動を組み合わせて考えることで、付けたい力をできるだけ具体的におさえる。 ○言語活動を位置付けることによって、子ども自身にとっての相手意識や目的意識に応じた学習活動を可能にすることができる。	言語活動 ↓ おすすめの物語を『あらすじカード』にまとめて4年生に紹介しよう ☆自分が選んだおすすめの物語の中心人物の行動に即して出来事を確かめ、あらすじをとらえて『あらすじカード』にまとめて4年生に紹介する。			
＜ステップ3＞言語活動を遂行するための能力をリストアップし整理する ○取り上げた言語活動をもとに、付けたい力を具体的なレベルで明らかにしていく。その能力の全てを1つの単元で重点的に指導するのではなく、下記の点のさびわけが必要。 ① 該単元で重点的に指導するもの ② 前単元までに既に身に付いている能力なので、当該単元では、それを活用させるもの ③ 子どもたちの実態に照らして、まだ指導するのは難しいため、重点的に扱うのは次単元以降に回し、本単元では手厚く手立てをとり、活動が円滑に行われるように支援するもの	必要な能力 ↓ ①＜重点＞人物の行動に即して出来事をとらえ、文章の要点に注意してあらすじをまとめる力。いろいろな国や地域の物語から読みたい本を選んで読む力。			
	②＜既習＞場面ごとに起きた出来事を関連づけて読む力。中心人物の気持ちを考えながら読む力。			
	③＜支援＞場面の移り変わりに注意して物語の山場をとらえる力。			
＜ステップ4＞リストアップした能力を育成する指導過程を構想する ○子どもの実態を十分踏まえた指導過程の構想が大切。陥りがちなのは、「読むこと」において、単元の第三次での言語活動は活発に行えるように指導過程を組むが、第二次で教材文を読む時は、段落ごとに平板に読み進めてしまうというケース。第二次においても、子どもたちの「気になる」「不思議」「調べたい」などといった主体的な思考や判断を生かせるような場の設定が重要。 ○教材を読む第二次では、場面や段落ごとに読み進めるのではなく、指導事項に対応した指導過程を工夫する。 ＜教材を読むポイント＞ 物語文・・・「登場人物の行動」「登場人物の性格」「中心人物の変化」「情景・心情描写」「優れた叙述」 説明文・・・「順序」「中心となる語」「事実と意見の関係」「要旨」「自分の考えを明確にして読む」 など	単元計画			
	一次	1時間	① 教師のモデルを見て、単元のゴールイメージを持つ。	
	二次		習熟の場	活用の場
		8時間	②教材文を読み、人物の行動を手がかりに場面わけをし、物語の大体をとらえる。 ④第一場面の出来事や中心人物の行動をとらえ、一場面のあらすじをまとめる。 ⑥第二～六場面の人物と出来事を整理し、あらすじに必要な大事な出来事を選びだす。 ⑧物語のあらすじに必要な言葉に注意して、物語全体のあらすじをまとめる。	③おすすめの物語の登場人物や出来事を確かめて、物語の大体をとらえる。 ⑤おすすめの物語の始めの場面の出来事や中心人物の行動をとらえ、始めの場面のあらすじをまとめる。 ⑦おすすめの物語の人物や出来事を整理し、あらすじに必要な大事な出来事を選びだす。 ⑨おすすめの物語のあらすじに必要な言葉に注意して、物語全体のあらすじをまとめる。
三次	3時間	⑩ 教材文のおもしろさが伝わるように、あらすじカードを書く。 ⑪ おすすめの物語のおもしろさが伝わるように、あらすじカードを仕上げる。 ⑫ おすすめの物語をおすすめカードをもとに4年生に紹介する。		